

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

十勝岳では、本日（22日）11時07分頃、62-2火口からごく小規模な噴火が発生し、黒色の噴煙が火口縁上の高さ約200mまで上がりました。この噴火による大きな噴石の飛散は確認されていません。

火山活動が高まった状態となっており、今後も62-2火口及び隣接する振子沢噴気孔群付近ではその周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項】

62-2火口から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況（図1～4）

本日（22日）11時07分頃、62-2火口でごく小規模な噴火が発生し、黒色の噴煙が火口縁上の高さ約200mまで上がりました。この噴火による大きな噴石の飛散は確認されませんでした。噴火に伴い、継続時間が約45秒の火山性微動が観測され、避難小屋観測点で噴出に伴うと推定される最大0.76Paの空振を観測しています。

十勝岳での噴火は、2004年2月25日から26日に発生したごく小規模な噴火以来です。

○活動評価

62-2火口や振子沢噴気孔群付近では、ここ数年にわたり噴煙・噴気が多く、特に62-2火口付近はごく微弱な発光現象が時々みられるなど、活発な熱活動が続いています。

3月以降、山体付近のやや深部の膨張を示す地殻変動が続いています。4月以降、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加や62-2火口付近及びその周辺の地震活動のやや活発化が認められ、62-2火口や振子沢噴気孔群付近の熱活動もより高まっています。

十勝岳では火山活動が高まった状態となっており、今後もごく小規模の噴火が繰り返し発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図1 十勝岳 62-2 火口の噴煙の状況

上：白金模範牧場監視カメラによる（十勝岳の北側から）

下：避難小屋南東監視カメラによる（62-2 火口の北西側から）

- ・本日（22日）11時07分頃、62-2火口でごく小規模な噴火が発生し、黒色の噴煙が火口縁上の高さ約200mまで上がりました。大きな噴石の飛散は確認されていません。

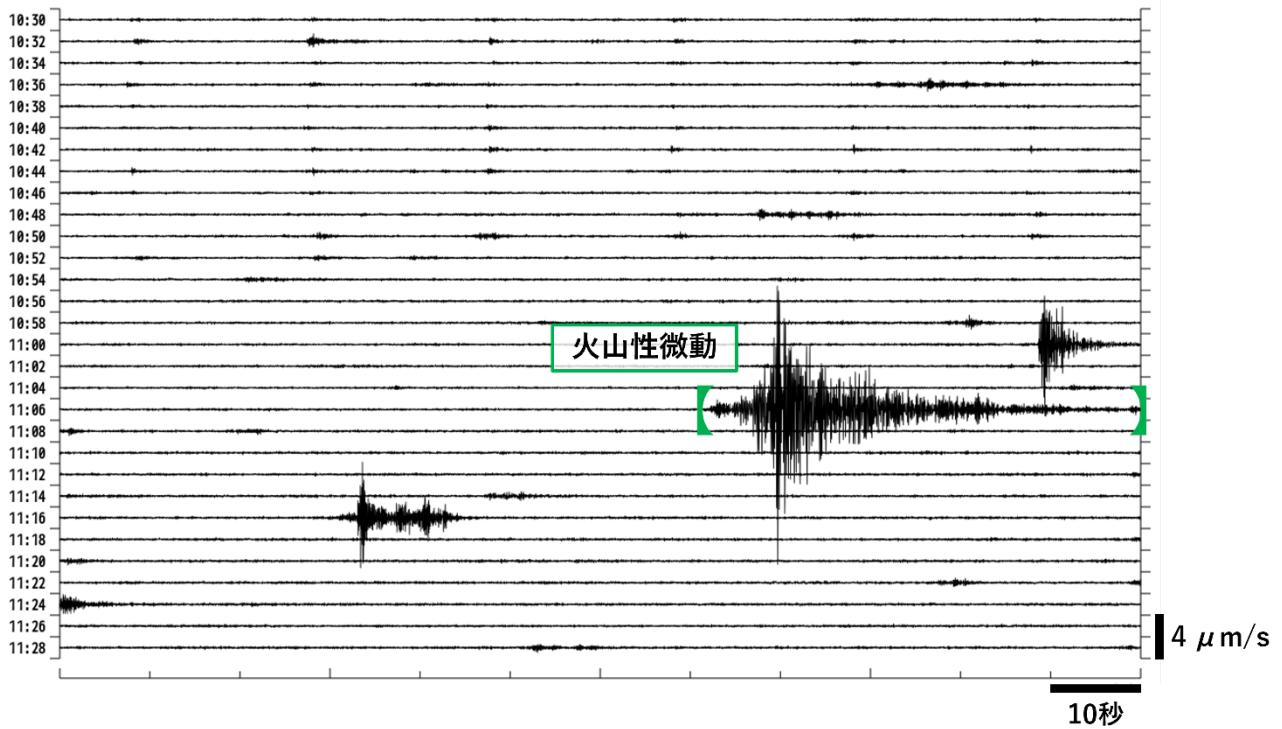


図2 十勝岳 避難小屋東観測点の上下速度波形（7月22日10時30分～11時30分）
・噴火に伴い、継続時間が約45秒の火山性微動が観測されました。

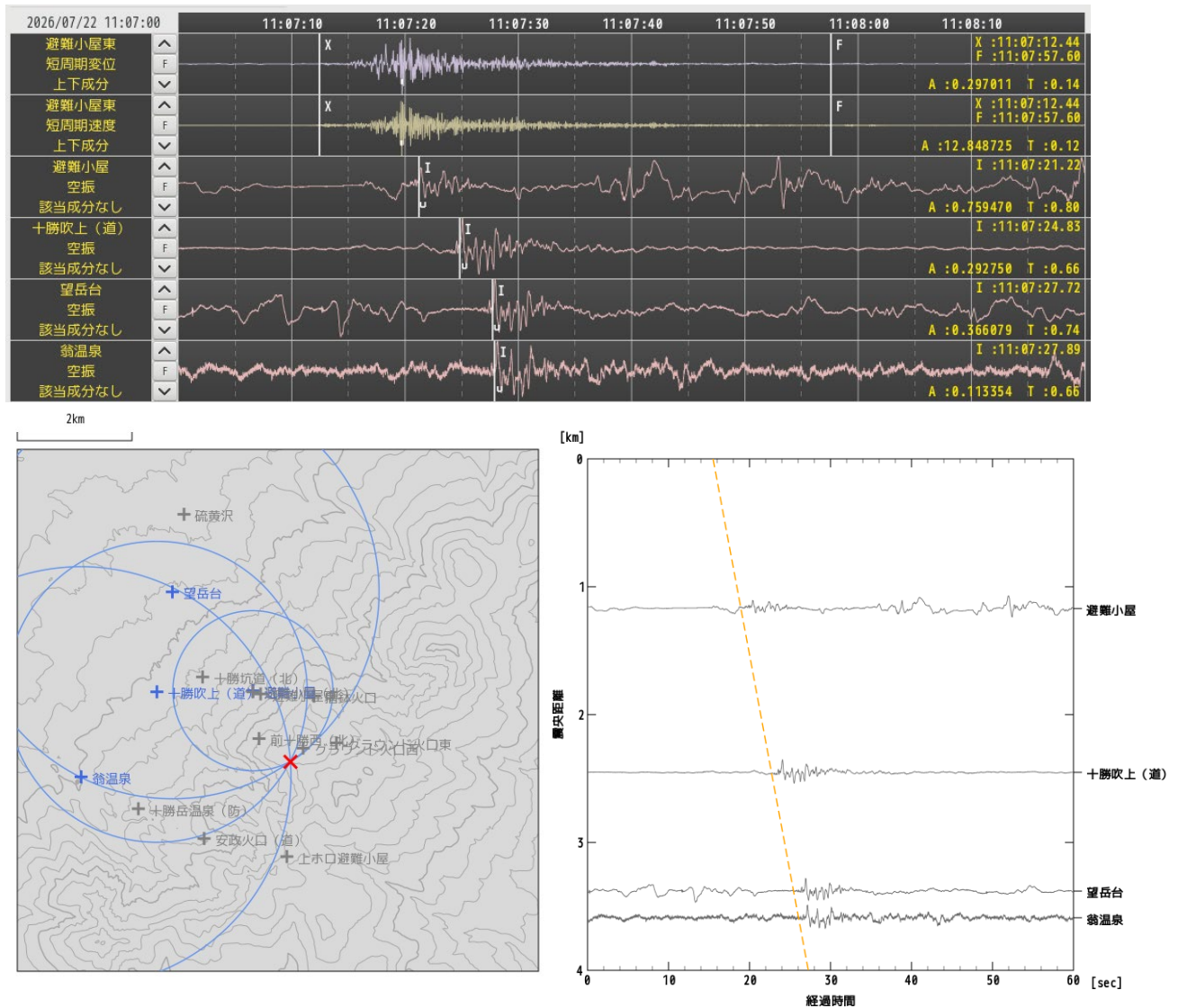
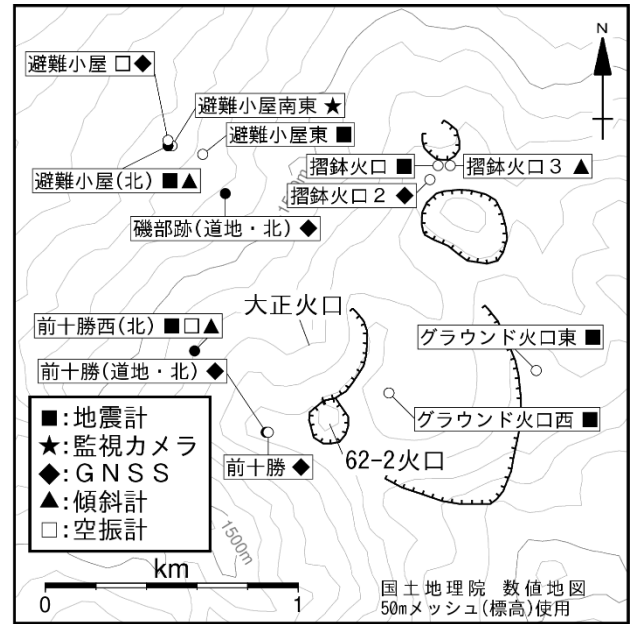
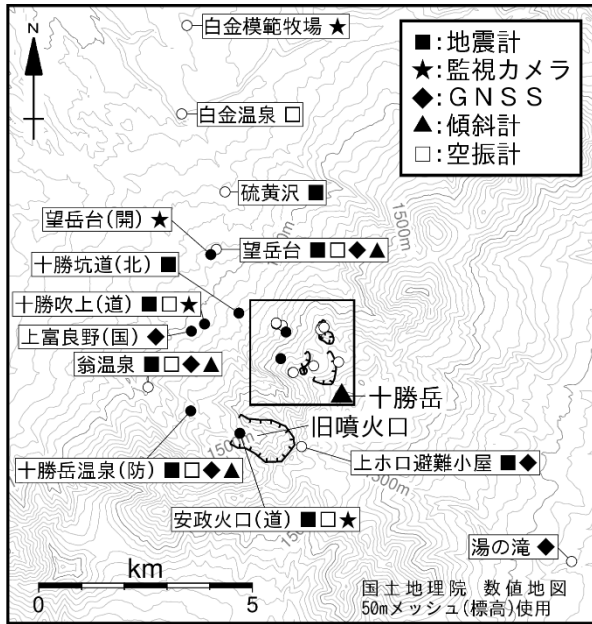


図3 十勝岳 噴火に伴うと推定される空振の発生状況

- 上 : 微動及び噴火に伴うと推定される空振の発生状況
- 左下 : 観測された空振の到達時間差から推定される空振源 (赤色×)
青色+が今回の噴火に伴い空振が観測された観測点です。
- 右下 : 62-2火口付近を空振源と仮定したときの震央距離-経過時間図
横軸は22日11:07からの経過時間です。
橙色の破線はおおよその音速 (340m/s) を示します。
- ・ 十勝岳周辺の空振観測点で、62-2火口での噴火に伴うと推定される空振を観測しました。



図4 十勝岳 警戒が必要な範囲（噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続）
・62-2 火口から概ね 1.5km の範囲（赤円内）では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。
(開):国土交通省北海道開発局、(国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所、(道):北海道、
(道地):地方独立行政法人北海道立総合研究気候エネルギー・環境・地質研究所

図5 十勝岳 観測点配置図